

学校の教育目標	自立 貢献 生き抜く力
----------------	----------------------------

国が示す総合的な学習の時間の目標
<p>探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究的な学習の課程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。</p>

学校の総合的な学習の時間の目標
<p>1 横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、体系的な思考力・批判力・分析力・コミュニケーション力を身につける。</p> <p>2 様々な範囲(世界・日本・地域・自己)の課題に対し、よりよく解決する資質や能力を培う。</p> <p>3 諸課題に対し当事者意識を持つことで、自己の生き方を考えることが出来る能力を身に付けるとともに「生きる力」を育成する。</p> <p>4 読書活動を通し、読書の習慣を身に付け、図書を活用した探究的な学びができる生徒を育成する。</p>

育てようとする資質や能力及び態度		
知識・技能		
第1学年	第2学年	第3学年
学習課題を把握し、課題追求の方法を身につける。	自らテーマを設定し、課題追求の方法を身につける。	課題解決の中から新たな疑問や課題を見出し、追求できる。
思考・判断・表現		
第1学年	第2学年	第3学年
自己の特性や能力、役割を認識している。	自己のよさや能力を発揮したり、伸ばしたりできる。	自己の将来に見通しをもって、計画的に行動できる。
主体的に学習に取り組む態度		
第1学年	第2学年	第3学年
自分と他者との関わりを理解できる。	他者と関わり合いながら課題を解決できる。	社会の一員としての自分に気づき、関わりをもち、生活していく態度を身につける。

内 容	学習対象	学習事項
第1学年	職業について調べ、社会が人々の関わりによって成り立っていることを理解し、自己の将来を設計するために必要な知識を身につける。	職業について調べ、プレゼンテーションを行う。異文化に触れ、留学生等と交流を深めることで国際理解を図る。
第2学年	移動教室で訪問する地域の課題を調べ、体験し自分たちの地域のよさを再発見する。留学生と交流し、異文化理解を図る。	移動教室で訪問する地域と江戸川区と比較しながら調べ、体験し、発表する。異文化に触れ、留学生等と交流を深めることで国際理解を深める。
第3学年	1・2年で学んだ経験を基に、さらに他の地域との比較により地域を理解し、持続可能な社会を考える。	修学旅行を通じ、江戸川区と比較しながら長崎を中心とする日本の文化や平和を学び、持続可能な社会の在り方を考察・構想し、発表する。

学習活動	指導方法	指導体制	学習の評価
<ul style="list-style-type: none"> 各学年とも新しいテーマに取り組む毎に全体のガイダンスを行う。 1年生は主に職業について、調べる。2年生・3年生は江戸川区と比較しながら他地域について調べる。 各学年ともプレゼンテーションする機会を設ける。独自の評価表を用いて表彰を行う。 各学年ともSDGsなど3年間を見通したテーマについて調べ学習や表現する活動を重視 	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた指導の工夫。 体験学習を中心とした指導の工夫。 発表・プレゼンテーションによる言語活動の指導の重視。 教科との関連的な指導の重視。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路学習部を中心に学年ごとの担当を決め担当者の計画を練る。また、学年間で連絡をとりお互いに情報を交換する。 学級担任外の教職員による支援体制の確立。 地域や企業の人材活用への連携体制の確立。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題ごとに「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」について進路学習部及び学年の教員で検討して評価する。 レポートやポスター、新聞などの作品及び発表・プレゼンテーションの態度についての自己評価や相互評価。